

No. 30

ランチ・クラス報告

ランチレター No. 29でお知らせした東京ランチ・クラスが7月からスタートし、毎月第1土曜日につきのように大勢のダンサーを集めて、4回が終わりました。

第1回 64名	第2回 47名
第3回 45名	第4回 62名



講習会、宿泊研修はいままで何回も行なっていますが、クラスは初めてなので、実施にあたって事前に参加の申し込みを受け、おおよその人数を把握することとクラスに対しての希望などについて参加希望者から意見を聞きました。

指導は公認のティーチャーが3か月ずつ交替で受け持っていただくようお願いし、9月までを佐藤仁美さんが行ない、10月から12月までは岩崎誠司さんが担当します。

第1回は遠方からの参加もあって予想していた以上の人数になりました。小海弘子さんのピアノをともなつてのステップ練習、フレージング、手の使い方など、基本的なことに十分に時間をかけたRSCDS サマースクールに準じる指導法は、参加者から望

まれていたことですが、とくにステップ練習ではクラスに加わった池間、松橋、岩崎、佐藤、五十嵐、鳥山の各ティーチャーから参加者ひとりひとりに適切なアドバイスがあり、好評でした。今回は駅から近く、会場の2面は鏡張り、ピアノの備えがあり、エアコンが整っているなかなかぜいたくな二階堂学園の施設を借用できたのは幸いでした。反面、会場は60名の参加者にはせまく、思ったように動けないとの感想があります。

10月は参加者の希望により時間帯を午後としました。3割ほど参加メンバーが変わったようです。

クラスは始まったばかりですが、当初考えていなかった事項も出てきました。ティーチャーをまじえ、委員会で話し合っ行ってきたいと思っています。人数が多くても、会員・非会員を問わず、すべてのひとにオープンなクラスを続けます。みなさんも「行きたいから行く」で構いません。どうか遠慮なくお越しください。

第5回目以降の日程はつぎのとおりです。はがきでご案内した日時、場所から変わりましたのでご注意ください。

第5回 11月4日(土) 6.00 - 8.40PM 二階堂芸術スポーツホール

第6回 12月9日(土) 6.30 - 8.40PM 千代田区総合体育館

(神田駅西口5分・鎌倉河岸)

ティーチャー: 岩崎誠司さん

会場借用の確定が1~2か月前となっているため、1月以降の日取りはそのつどセクレタリにお問い合わせくださると幸いです。

また、よりよいクラスにしたいと思いますので、ご要望・ご意見などいろいろとお聞かせくださるようお願いいたします。

ランチ合宿は石川島研修センター

第9回ランチ合宿は、昨年に引続き神奈川県綾瀬市の石川島研修センターで開催します。

日 時 96年2月17日(土)~18日(日)

場 所 石川島研修センター(神奈川県綾瀬市)

会 費 ¥15,000程度を予定

募集人員 80名

くわしくは次号のランチレターでご案内いたします。

本部、会費値上げを提案

ことしのRSCDS年次総会は、11月4日(土)エア・ランチがホストとなってトゥルーンで開催されます。東京ランチからは駐スコットランド代表のクレメント篤子さんが出席の予定です。現在、ロンドン・ランチから本部チェアマンなどの任期を3年→2年とする提案(ランチ総会を経っていないため昨年取下げられた)、同じ

く執行委員の選出方法を単数記入から順位つき複数記入とする提案がなされています。
そして執行委員会からは本部会費の値上げが提案されています。

年次会費	現行	£7	→	£10
長期会費	現行	£70	→	£100
Affiliated Group会費	現行	£15	→	£20

東京ブランチ委員会としては会員へのサービス向上のため、会費値上げはやむをえないとの立場です。

サマースクール1995

セントアンドルーズの RSCDSサマースクール1995には日本から前期・後期あわせて過去最多の三十数名が参加し、とくに前期は黒髪が目立ちました。ゴルフ全英オープン選手権直後のサマースクールで、ゴルフ場周辺にはまだテント村が残っていました。スーツケースを運びあげるのがユーウツだったルーカス駐車場の跨線橋階段は廃止されてスロープとなり、停車場に降り立った女性からは、安堵のあまり喚声が起こるほどでした。みなさんそれぞれにクラスで、ケイリで活躍しましたが、とくに岩崎チェアマンは、ヤンガーホールのSCDデモをはじめ各方面で大活躍したことをお知らせしておきます。

なお、後期のPreliminary Examination 予備試験では中田多鶴子さん（茨城・竜ヶ崎市）が、みなさんの太鼓判どおり難なくパスしました。おめでとう。もっとも本人は、「必死の思いだった。ここで受験された東京ブランチ先輩が、ほんとうに苦労したのが身にしみてわかった」と述べています。

3人の会員からサマースクールやスコットランド周遊の印象をいただきました。

サマースクールに参加して

小谷野 千枝子（豊岡市）

1年8か月前にSCDに出会った当初から、ぜひ本場のスクールを早い時期に体験したいと願っておりましたが、さいわいにも今夏、岡田昌子さんの企画に参加でき、前期2週間コースとスクール後のスコットランド周遊（一行16名）を楽しみました。

未熟な私のIntermediate Classへの不安は、世界中から集まった4セット弱の人々のなごやかな雰囲気の中で、即座に消えました。ロウソン先生に“No.1”とほめられ、クラスメートから賞賛(?)の拍手を受け、先生のパートナーとなり、まさかのモデルで踊れたとき、こどもの頃のようにうれしさが心が震え、足の痛さなど飛んで行くようでした。第2週はAdvanced Cla

ssへ行くようにと言われて、大丈夫かなあの心配も、本当にあたたかい周囲のリードとリトル先生の指導に魅了されて、最後の日にはクラスメートと感動の涙で抱き合って別れました。“Chieko, 来年会おう”と大勢のかたがたに言われて、まさにスクールはまたたく間でした。ヤンガーホールのデモで踊られた日本人の大先輩の美しいシーンに、心を奪われたことも生涯忘れません。

ツアーの途中、インバネス・ブランチとの交歓ボールで親しく踊れた経験は、ネス湖の風景よりも強く記憶に残りそうです。その夜に泊った300年前のステアート城は一種荘厳さが漂っていて、暖炉の炎が朝まで消えることなく、私の目にまぶしく揺らめいていました。10年に

3回という好天に恵まれ、スカイ島への道を明るくしてくれました。スカイ・ブランチのかたがたと夕食を共にし、ソーシャルダンシングを十二分に楽しみ、その夜泊めていただいたメンバーのお宅で深夜まであれこれ談笑し、旅行中であることを忘れそうでした。スカイ島2泊目の

思い出っぱいのスコットランド

大内 俊子（横浜市）

東芝ツーリスト主催、日本FD連盟・東京ブランチ後援の「スコットランドーダンスと歌の13日間」の旅に参加しました。

総勢24名が8月9日成田を出発、同日の夕刻エジンバラ空港でクレメント篤子さんと松橋順子さんの出迎えを受け、ビル・クレメントさんもこれからずっとご一緒という、ちょっと贅沢な旅がスタートしました。ホテル着後、観光局主催のウェルカム・レセプションがあり、その夜はライトアップされたエジンバラ城が目の前という素敵な部屋で眠りにつきました。

翌日、RSCDSのヘッドオフィス訪問に始まり、セント・アンドリュースでのヤンガーホールでのパーティ、サマースクール見学とダンスのレッスン。パスではドレスでハイランド・ボールに参加し、ピトロッホリーではフィドルのコンサートを楽しみました。

6日目、一路北上してインヴァネスへ。夜はビル・クレメントさんにハギス・セレモニーを見せていただき、ネス湖ではネッシーに期待をかけ、嘆きの谷グレン・コーの雄大な景色をバックにクレメントさんのバグパイプ演奏に感激しました。果てしなくつづくハイランド地方の風景に別れを告げ、再び南下してグラスゴーの市内観光、リンリスゴー宮殿の野外パーティ等、盛り沢山の日程をこなし、またエジンバラに

トライしたサマースクール

藤田 節子（大分市）

以前から、いつかはサマースクールへと願っていました。「ことばとダンスがまだまだだから」と思っていました。クレメント篤子さんとの接点で1週間のスクールに心がうごき、「

アーマデルの内海(?)の静かに沈む夕陽のすばらしかったこと!! タンブレインのホテルでジム・マクロード・バンドの演奏で一般客と、SCDに熱狂しました。SCDありがとう!! 岡田さん、諸先輩の人たち、楽しい25日間の旅をありがとうございます。

戻りました。市内観光とダンスのレッスン、そして夜はタトゥー観賞です。とにかく寒いからと用意した防寒具は、20年ぶりの暑さでまったく必要なく、とてもいい席で幻想的なすばらしいショーに酔いしれました。そしていよいよスコットランド最後の夜は、ストリクトリー・スコティッシュの観賞とエジンバラ・ブランチ会員との交流会で幕を閉じました。

最終日はロンドン観光を楽しみ、帰途の飛行機では日本で見逃した「ロブ・ロイ」を見ることができ、言うことのない旅のしめくりとなりました。

わずか10日ほどの旅でしたが、目からウロコということがいくつかあり、中でもハイランドボールでイブニングドレスに高い靴であたかもすり足のようなステップで、それは優雅に踊っていたクレメント篤子さんの姿、ヤンガーホールでかなり高齢と思われる方々が、歩いているようなのに、上手にガイドして下さった姿勢などが印象に残りました。

スコットランドではクレメント篤子さんのくわしいガイドで、ダンスゆかりの地名・人名に胸躍らせ、帰国後は再びスコットランドの土を踏みたいと願って、「スコットランド王国史話」を手を頭を鞭打っています。もちろんダンスの足にも、です。

年齢もあるし、早くトライしたほうがよいのでは」と行くことを決心しました。

7月27日福岡空港を発ち、ロンドンーエジンバラ経由でセント・アンドリュースに入りました。大分からの友人とはここで別れ、緊張の

毎日が始まったのです。日頃のんき屋の私はロバの耳のようにヒアリングに注意し、日本とのマナーの違いにとまどい、ヤンガーホールのボールではソシャルを全身で感じました。出すぎても、臆病でもいけないし、文化のちがいをまざまざと感じながらの日々でした。レッスン会場への自然一杯の散歩道、そばを流れる小川とカモの群れ、庭先の花の数々、肩をならべて歩いたスエーデンの人、夏が短いせいでしょうか、涼しすぎるほどの海辺でも泳ぐ人とそれをクレイジーというドイツの人、ものさしが違って感心することばかりでした。

滞在中は松橋順子さんをはじめ、東京ランチ諸先輩の方々のお世話になりました。バブに行ったり、ドライブして参加したカーナスティのパーティ、パットゴルフなど心をなごませていただきました。

帰りにエジンバラに2泊しました。買い物をかかえて歩いていたら、プリンス公園からダ

ンスの調べが流れてくるのです。エジンバラ・ランチの戸外ダンシングです。見るよりも踊らなければ。そこでサマースクールの友人数人と再び出会いました。最後のダンスではフランス人のナオリーン・ニュードさんと踊り、"I enjoyed dance with you. Thank you!" (たぶん、そう言われたと思う)と頬ずりまでされました。私の踊りがこんなに喜ばれるなんて初めてでした。終わって彼女のエジンバラの友人6人とバブでの一杯はとても楽しい思い出になり、ことばの垣根も忘れるほどでした。

大好きなスコティッシュ・ダンスを通じて人々と出会い、ダンスにあるマナー、心遣い、パーソナリティが文化として生き、人々に備わっていると思いました。松橋順子さんに、オーバーかも知れませんが「本当に来てよかった、死んでも思い残すことないわ」と述べたのです。これからはできるだけ楽しいダンスになるよう努めたいと心に記しました。

SCDクイズ(第6回)

今回はマナー編その1です。つぎのうち正しいと思われるものに○、疑問と思われるものに×をつけ、はがきで下記あてお送りください。

【問題】 (解答記入例：1-○、2-×、……)

1. 花子さんは昼食に匂いのきついものを食べたので、午後のダンスですずっとガムをかんでいた。
2. かず子さんはSCDを8年間楽しんでいる。パーティに行ったとき、女性どうしてカップルになることがしばしばだった。どちらが女性役をやるか、かず子さんは相手との背の高さできめていた。
3. ゆかりさんは上背のあるほうで、クラスではもっぱら男性役をやっていた。パーティのとき男性からパートナーに誘われたが、男性役しかできないんです、と踊るのをことわった。
4. 食事・デモ・バグパイプ演奏で残り時間が少なくなり、主催者の太郎さんは、パーティ後半でプログラムにあった4つのダンスをカットすることにした。

解答宛先：222 横浜市港北区篠原北 1-28-25 鳥山とよき
締切り：95年11月10日(消印有効)

- 賞品 : バンクーパー・ブランチの記念ポロシャツを3名に。
正解多数の場合は抽選。
発表 : 次号ブランチレター

前号第5回のクイズ正解は1-X、2-O、3-O、4-X、5-Xでした。ちょっとむずかしかったようで、応募者ゼロ。賞品は第6回に流用します。

【解説】

1. "Gates of Edinburgh". "gate"は、スコットランド語では「門」ではなく、「street」「通り」にあたる。このダンス名はエディンバラ城からホリールド宮殿にいたる「ロイヤル・マイル/ハイストリート」を意味している。
2. "Rest and be Thankful". 地名。スコットランド西部、アーガイル地方にある標高 262メートルの眺望絶佳の峠である。
3. "None So Pretty". 野草の一種。
4. "Old Man of Storr". スカイ島ストア村にある老人の形をした大きな岩のことである。サザランド地方アシントにも同じような岩があり、こちらのほうは"Stoer" とつづる。
5. "John of Bon Accord". アバディーン市の別名が"Bon Accord"ボナコード。アバディーン市に住んでいるジョンといえば、ジョン・ドゥルーリのことであって、この踊りは作者ロイ・ゴールドリングからドゥルーリに献呈されたものである。

会員名簿訂正・変更

海老沢京子	662 西宮市甲風園 3-6-10	0798-65-3674	(転居)
梶野幸雄	252 藤沢市湘南台 4-15-10	0466-44-3537	(転居)
梶野義枝	252 藤沢市湘南台 4-15-10	0466-44-3537	(転居)
佐藤紀子	232 横浜市南区大岡山 4-26-23	045-712-2041	(電話誤記訂正)

風間英子さん 埼玉県与野市でSCD同好会「ポピンズ」を率い、精力的に活躍されていた風間英子さんが、8月、くも膜下出血で急逝されました。午前例会を終わり、ご自宅に戻られて眠るようになられたとのこと。91年にセアンドルーズを経験され、以後関東一円のSCDイベントにはほとんど出席されてみなさんから大きな信頼を得ておられました。ブランチ活動にも参画し、より大きく関与していただく矢先でした。ほんとうに残念です。「軽やかにホップしてね」といつもいっていた風間さんの面影は、いつまでもわたしたちのところに生き続けることでしょう。

新ダンスブック紹介

"20 Scottish Country Dances by ALEC HAY - Book Two"

"My Ain Lassie" ほかに全20ダンス

ブランチレター No.27(1994.12.20)で故アレック・ヘイの同名のダンスブック"1"をご紹介した。ブック"1"に引き続いてこのほどブック"2"が出版された。1967年から1991までにつくられた20のダンスを収録している。巻頭の注記がおもしろい。アレック・ヘイがつくった2カップル・ダンスは、ダンス解説にあるとおり、すべて1組と3組が同時にスタートする踊りかたである。アレック・ヘイは4組が踊りはじめるまで、3回もじっと待っているやりかたが好きでなかった、と述べている。

[アレック・ヘイ・ブック ¥800]

以下のスコットディスク社製ビデオ(NTSC/VHS)およびカセット、少数ですが入手しました。

"Jim MacLeod's Hogmanay Party" 1990.

ダンブレインのホテルで行なわれたホグマニー(大晦日)のパーティのライブ録画である。バグパイプ演奏に始まり、Auld Lang Syneで終わるまで、ダンスあり、ジム・マクロード・バンドによる演奏あり、全員合唱ありのにぎやかな模様が収録されている。カントリー・ダンスのボールとはことなり、ふつうのひとが楽しんでいるのはこういうパーティなのか。いわばケイリ・ダンシングを知るには絶好のビデオである。53分。

[ホグマニー・ビデオ ¥3,700]

"Flower of Scotland" 1994.

The City of Glasgow Philharmonic Orchestraグラスゴー・フィルハーモニー交響楽団(指揮:イアン・サザランド)が演奏するスコットランド民謡を背景に、コンサート風景とヘリコプタから撮影したグレンコー、スカイ島、スターリング(ウォリス記念塔)、エディンバラ、グラミス城などの名所が交互に映しだされる。ダンス場面はないが、オーケストラ演奏と、行ったひとには思い出が新たになり、これからのひとには夢がふくらむスコットランド各地の光景が楽しめる。50分。

[グラスゴー・フィル・ビデオ ¥3,700]

"Tribute to Scott Skinner" 1993.

このカセットは150年前にバンホリーで生まれたスコットランド音楽史上の巨人、ジェームズ・スコット・スキナーの曲を中心に、ウィリアム・マーシャルの曲やDuke of Perthなどのスコットランド音楽が録音されている。演奏はスコット・スキナーの誕生地であるバンホリーのストラススぺイ&リール・ソサエティ。フィドルを主にした演奏で、ひとりクルマを運転しながら大きめの音量で聞くと、足も頭もすっきり、という思いになる。もちろん、近所の奥さんから陰口を言われたときなどにも効力あり。冗談はともかく、スコットランド音楽あつてのカントリー・ダンスが再認識できるカセットである。

[スコット・スキナー・テープ ¥2,000]

"Scottish Country Dances" 1989.

ジム・マクロード・バンドによるカセットで、すでにお手持ちのかたも多い。ダンス・ナンバーは、

Side 1: Westminster Reel(8x32R), Swilcan(4x32J), Sailor(8x32R), Robertson's Rant(96S), Crown Court(8x32J), Burnie Boozie(8x32R)

Side 2: Earlstoun Loch(5x32R), MacDonald of the Isles(3x32S), Ladies of Dunse(8x32R), Porchester Hall(8x32S), Peggy's Wedding(4x64J)

ロンドン・ブランチの60周年を記念してつくられたカセット。同ブランチ・ブックから3曲が収められている。 [ジム・マクロード・カセット ¥2,000]

以上のブック、ビデオ、カセットの申込み先：郵便振替（現金送金不可）で、

口座番号：00170-8-160278

加入者名：鳥山とよき 価格は郵送料込み。

締切り：95年11月22日（消印有効）

指導者資格試験の日程、いまだ決まらず

東京地区で96年5月初旬に指導者資格試験を、という希望を本部試験委員会に出していますが、来年1月の委員会に東京ブランチ希望を討議事項として提出する、という9月26日付の本部回答です。東京ブランチは太平洋地域の試験ツアーに組み込まれているといえ、他のブランチの都合や本部予算の関係上、実現は容易ではないようです。

事務局から

- 現役員6名の任期は、あと半年となりました。もちろん来年の総会で正式に選出されるわけですが、そろそろころづもりの時期であります。自薦・他薦を問いませんので、その節にはよろしく願いいたします。
- 東京スコティッシュ・ブルー・ベル・クラブ（セクレタリー：岡田昌子さん）から同会会員を中核として新たなブランチを東京につくりたい、との書面申し入れがありました。RSCDSのルールでは一地域一ブランチの原則があり、現東京ブランチ会員の帰属にも少なからぬ影響を与えるため、ブランチ委員会で慎重に検討中です。

RSCDS 東京ブランチ 1995.10.25発

RSCDS東京ブランチ

セクレタリー 掛川純子 0480-33-3494

345 埼玉・宮代町宮代台 3-4-14